

過ぎたるは猶及ばざるが如し

巻頭言



金属労協(JCM)事務局長
浅沼 弘一

先日朝食会で出された食事を食べていて驚いたことがある。普通に箱に入った弁当風の日本食だったが、そこに入っていた鮭の塩焼きに妙な違和感を覚えた。全く骨がないのである。よく見ると、おそらくひとつひとつ骨を抜いてあるようで、なんともつるつとしていて気味が悪い。この前スーパーに行って買った塩サバも「骨抜き」と書いてあったことを思い出した。魚には骨があるという警戒感とともに食べることに醍醐味があろうものを。

過剰サービスとでも言うのであろうか。骨抜きのサバは他よりも少し高かったように思うが、それでも売れるから置いてあるんだとすると、高くても買う人がいるということである。金勘定の面からは、販売数量が増えることでコストを回収でき、価格が高いことで商品単価が上がり、売り上げも増えると。たしかに合理性がある。まあ骨がささったのなんのと文句を言う輩がいるので、それに対する防衛手段ということもあるかもしれないが。

また別の話であるが、フライトの関係からフランクフルトで10時間ぐらいの乗り換え時間があったとき、空港にいてもどうしようもないので、市内に遊びに出た。東京で言えば銀座に相当するツァイルという町に行って愕然とした。昼間なのに店がどこも開いていない。日曜日なのである。有名なガレリアデパートの地

下食料品売り場とかうろうろするだけで数時間はつぶせると思ったのがっかりである。聞けば、ごく一部のドイツオリジナルでないところが開いているぐらいで、日曜日は基本的に休み。抜け駆けして客を集めて売り上げを上げようなんて輩もいそうにない。考えてみれば、別に週一日ぐらい店を閉めたって、客としてはどうしても困るというわけではないし、そういうものだとわかっているれば、何の問題もない。日本のデパート業界が正月三が日を休みにするという動きがあったが、昔は三が日どころか5日ぐらいにならないとこの店もやっていないというのがあたりまえだったように思う。今やスーパーは元旦から開いているし、コンビニに至っては、休んでいる日どころか休んでいる時間さえない。でも、これって本当に必要なのか。ひょっとしたら東京だけなのかもしれない。このあいだ旅行で松本に行ったが、飲食店含め日曜日の夜はほとんどの店がお休み。旅行者としては不便ではあるけども、そこで生活している人にとってみると当たり前で、日曜日の夜に開けるなんて必要ないということになるんじゃないかと思う。

過剰品質。日本のメーカーの製品は、必要とされるもの以上の品質があり、優秀と評価されるそうだが、

必要とされていない品質は対価を生みにくく、最終的には生産性を引き下げるということにつながっているのではないか。しかし、このあたりの過剰さが日本の良さにとらえられたり、別の形では、おもてなしと呼ばれたりしている。すべてを否定することは適当でないと思うが、程度の問題である。

アマゾンやレジなしのコンビニを向こう数年間で最大3000店出店するそうであるが、これは第4次産業革命の一つの応用例と言える。技術革新をどのように取り入れて、日本らしい第4次産業革命を作り上げていくかは、我々の産業に与えられたテーマである。過剰品質というレベルまで求めるわけではないが、IoTやAIの技術を活用して、ある程度の部分はロボットに代替してもらい、その上に載る品質やサービスの部分を人が分担することで、何かしら日本らしい第4次産業革命に近づくのではないかと感じる。さらには、これによって生産性が高まることにより、働き方の見直しや働く環境の改善が期待できるように思う。

ただ、過ぎたるは猶及ばざるが如しで、やりすぎはいかんです。私は、恐竜のロボットが受付しているようなホテルには、絶対に泊まりたくない。



普段は賑わうフランクフルトのショッピング街も日曜日は店の多くがお休み。人通りも少なく閑散としている。(g215 / Shutterstock.com)